英和辞典の我流評価　―　実用英語とは　工業英語編

世の中には用もこれほど編集したなと思うくらいの英和辞典が溢れている。その大きさは、小辞典から大辞典まで。

ヒゲ・じーちゃんは、興味の赴くまま戦前発行されたものから現代までの英和辞典を素人としてはかなりの冊数を集めた。

これまでに 2 度のお勤めをした。最初の就職先は貿易商社、2 度目は航空機製作会社。いずれも英語を使っての仕事だった。

ヒゲ・じーちゃんは、どっぷり文系の英文科の卒業である。就職してから必要とした辞書は、いわゆる専門用語辞典である。ビジネス英語と工業英語にかんする辞書、事典類もかなり購入した。

この経緯で自然と自分に合う辞書を選ぶための評価を始めていた。また、小中学生の孫の家庭教師役を始めて、算数、国語、理科、社会を小学生の孫に、英語、数学、国語を中学生の孫に教えた。中学生の孫は、今年高校へ入学した。高校生になった孫には、英語だけを教えている。国語、漢文、古文で分からないことがあったときは聞くように言ってある。数学は、理工系の父親に面倒を見るように頼んだ。

ここで最初に考えさせられるのは、英語、国語、古文、漢文用の辞書の選定である。孫が通うようになった高校では、学科毎の推薦辞書が数冊提示されていた。国語、古文、漢文はヒゲ・じーちゃんが簡便に引くときに使っている辞書を選択した。国語は三省堂の新明解国語辞典、古文は旺文社の古語辞典、そして漢文は大修館の新漢林。

英語に関しては、3 冊の推薦辞書があった。大修館　ジーニアス英和辞典第 4 版の他 2 冊。いずれも高校生と大学の教養課程くらいで使われる学習用英和辞典であろうと思われるものであった。このうちジーニアス英和辞典を孫のために買った。

この辞書とは別にある程度実用としても使える辞書を選んで与えた。その判断基準として使ったのが、"Fair coating squeeze in fillet."という英文である。これは、アメリカの航空機会社の飛行機の整備取扱説明書の中の一文である。

fair に産業英語として使われる動詞が載っているか、fillet に産業英語の名詞と動詞が載っているか、squeeze に分量を表す意味が載っているかで辞書の実用性を評価してみた。

以下はいずれもヒゲ・じーちゃんが合格点を出した小学館発行「プログレッシブ英和中辞典」に乗っている定義である。

fair:　動詞　（表面を）平らにする、（船体を）流線型などに整形する

fillet　名詞　（二つの刳型＜えぐりがた＞の間の）平縁；（円柱のみぞとみぞの間の）隅肉、面取り、（一般に知られている意味は”ヒレ肉”だろう）
動詞　・・・・・の面取りをする

squeeze　名詞　絞ることという意味に付随して、a squeeze　（・・・）の）一搾り（の分量）《of》:　a squeeze of lime　ライムの少量の搾り汁

このような定義が載っていれば、最初に挙げた例文も、”一搾りのコーティング剤をフィレット状に整形する。”というマニュアルらしい日本語にすることが出来る。整備の専門家なら使用するコーティングの分量は知っているので、”塗布したコーティング剤をフィレット状に整形する（または仕上げる）”と表してもよいと思う。

残念ながら学習用英和辞書には上記の定義は載っていないので、例文を日本文で表せと言われたら、それらの正しい意味を知らない人は困るだろう。

航空機について使われる fillet については、隅肉と言われても理解できない人もいるだろうと察するので、説明を加えておく。

”フィレット（fillet）：翼と胴体の接合部分に生じる干渉抵抗を減らすため、ファイバーグラスや金属板で滑らかな 2 次曲面（国語辞書では二次曲面と表示されている：空間で,x,y,z の三元二次方程式によって表される曲面。球面･楕円面･双曲面･放物面などがこれにあたる。）に整形した部分を言う。”三省堂　大辞林より）。”朝日新聞発行、日本航空広報部編集、「最新航空実用ハンドブック」より

要するに空気抵抗をできる限り最小に押さえることが航空機では求められるので（干渉抵抗を減らす）、空力学的に一番干渉抵抗を受けにくくするために曲面を放物線状に整形することを意味している。

fillet に関するマニュアルの例文を紹介すると、"Do not blend in airfoil root fillet radius."（翼根のフィレット・ラディアス（R）部位をブレンドしてはならない。）や"ALL FILLET RADII .25."（隅Ｒはすべて.25in）がある。

上記例文中の"blend"という単語の産業英語として相応しい日本語は、英和大辞典（研究社大英和辞典、大修館大英和辞典、さらに小学館のランダムハウス英語辞典）にも載っていない。

blend　ブレンドする（軽く磨く、丁寧に擦る　Blend and polish fretted area.（侵食された部分をブレンド＜丁寧に擦りおとし＞して、磨いて滑らかにする。　）日本航空技術協会発行、大島昌作著、「ジェット・エンジン英和用語事典」より。

この blend という単語のようなレベルだとどうしてもその分野の専門用語辞典がないと適切な日本語を探し出せないだろう。

以上の手順を経て、孫にはジーニアス英和辞典第 4 版は学校指定の辞書として買い、予備としてプログレッシブ英和中辞典を買い与えた。

ということで、Fair coating squeeze in fillet.というこのように短い英文でも学習用英和辞典では手も足も出ないということにもなる。昨今実用英語習得のため、英語授業の充実が云々されているが、到底学校の英語の授業だけではここまでの実用性が必要とされる英語の力は付かない。英単語の実用に耐える語彙力、その日本語の意味する内容の理解がなければ、実用に耐えうる英語にはなり得ない。ヒゲ・じーちゃんの経験で感じていることは、日本語の非力な人に英語のできる人はいないということだ。多分英語の出来る人は国語も出来るという相関関係があるという結果が、中高生の通知表の分析から出るのではないかと想像している。

マクドナルドで注文して、"To　go?"と聞かれてその意味が分かったとして、アメリカに行って友達に"What's　up?"と聞かれてその意味が分かったとして、それをもってして実用英語と言われたのでは、片腹痛い。こういうのを”チャラチャラ英語”とヒゲ・じーちゃんは称している。